

事業所活動紹介

各事業所の取り組みについて紹介いたします。

『笑顔の時間』



向陽園
ホームヘルプステーション心音

利用者のたくさんの笑顔に出会えるのがホームヘルプステーション心音の余暇支援です。その中から、エピソードをご紹介します。

足湯に行ったときのこと。利用者が観光客に挨拶をして話しかけたところ、大阪から一人で観光に来て足湯を楽しんでいるということを教えてくださいました。利用者とその観光客の方は「足湯は気持ちがいねえ」と笑顔で顔を見合わせていました。

カフェでコーヒーを楽しむこともあります。利用者がコーヒーを飲んで「美味しい」と笑顔がこぼれそれを見た店員さんもつられて笑顔になっていました。素敵な笑顔の連鎖です。

季節を楽しみたいとお花畑で散歩したときは「きれいだねえ」と言いながら深呼吸をしていました。五感を使って季節を楽しむということを学び、温かい気持ちになりました。

利用者が外出することで、たくさんのお会いがあり

そこにはたくさんの笑顔がありました。これからも、ホームヘルプステーション心音を利用することで、利用者やその周りの人たちが笑顔になるような思い出をたくさんつくってみたいと思います。

[向陽園ホームヘルプステーション心音
サービス提供責任者 伊藤 美和]



『冬休みの活動について』



児童デイサービス
月のひかり

先日冬休みが終わりました。短い期間だったので、毎日イベントが盛りだくさんの冬休みとなりました。長期休みの定番の活動になっているお泊まり会では、夕食はホットプレートを使ってチャーハンやたこ焼きを作りました。子どもたちにもできる場所はお手伝いしてもらいました。夕食後はチョコフォンデュも楽しみ、子どもたちもお友達とニコニコと楽しそうにしていました。夏休みに緊張して楽しめなかった子がいましたが、今回は緊張



も解け、楽しそうな表情が多く見られました。本人からの「楽しかった!また泊まりたい!」という声を聞くことができ、職員も嬉しく思いました。お泊まり会は子どもたちの自立に向けた第一歩になっています。

また、毎年恒例の餅つき大会は、日本の季節の行事を体験する良い機会となっています。初めて杵を使う子も多くなりました。事前アンケートでご家族から餅を食べないと聞いていた子も、みんなと一緒に食べることができ、初めて餅を食べる経験をしたことで意思形成支援に繋がったと思います。ご家族の様子をお伝えすると、ご家庭では見られない様子に驚かれる方もいらっしゃいました。

春休みも様々な活動を計画しています。子どもたちの経験と笑顔を少しでも増やしていけるように活動を提供していきたいです。

[児童デイサービス月のひかり 支援員 今井 優]

愛泉会 セミナー

一人ひとりが学び成長できる職場となるよう、今年も法人内・事業所内の研修に力をいれています。

東北フォーラム2025 in あおもり

東北フォーラムは、「この仕事の夢・喜びを東北から発信」をテーマに、東北各県の障害福祉に携わる現場職員が一堂に会し、日々の支援実践や想いを共有する研修会です。

現場職員自らが企画・運営することを特徴としており、東北6県の持ち回りで毎年開催されています。今年度は2025年12月15日～16日に青森県青森市にて開催されました。今年度は3つの分科会が設けられました。

私は第一分科会「一人ひとりが地域住民～共に生きる社会をめざして～」・第二分科会「児童から成人期への移行による現在の課題と今後の展望～社会参加を目指す児童支援～」に参加しました。

第一分科会では、岩手県一戸町の社会福祉法人カナンの園と、「日本一障がい者に理解があるコンビニ」の店長への取材映像を視聴後、「理想とする共生社会とは何か」をテーマにグループワークを実施しました。県や事業所の異なる参加者同士で意見を交わすことで、それぞれの視点や課題を知ることができ、大変有意義な学びの機会となりました。

第二分科会では、児童が成人期の生活へ円滑に移行するための取り組みについて学びました。福祉型障がい児入所施設東山学園の実践発表では、卒園後の就労やグループホーム生活に向け、日常生活の中での人との適切な距離感や信頼関係づくりなど、具体的な支援の工夫について紹介があり、今後の支援にぜひ活かしていきたいと感じました。

[グループホーム支援センター天花
支援員 押野 龍誠]

山形県からは今年も意思決定支援の取り組みについて発表を行いました。県内で作成している「意思決定支援事例集」から成功事例・失敗事例を厳選しロールプレイ形式で紹介。参加者との意見交換を通じて、支援の在り方や考え方を改めて見つめ直す機会となりました。

この事例集は県内研修でも活用されており、毎年各事業所から事例を集めて更新しています。本研修

を通して、「自分の事業所にも同じような課題がある」といった気づきを共有でき、日々の支援を前向きに捉え直すきっかけになったと感じています。地域が違っても、意思決定支援について共に考え、学び合えるつながりの大切さを実感しました。今後も事例集の活用と交流を深め、支援員同士の横の連携をさらに強化していきたいと思ひます。

[グループホーム支援センターみらい
支援員 熊谷 響]

分科会ははじめいくつかの講義・講演を受けてきましたが、基調講演では自身で活動のスケジュールを決めるオーダーメイド中事業所や多様な属性の人が関わり合う、多機能ホームについてのお話を聞いてきました。スケジュールを固定してしまうことで、職員が利用者の役割を奪ってしまう構造を打破し、相互に支える側・支えられる側のお互い様の関係を構築していることに感銘を受けました。また多機能ホームのように、地域のひとも自由に使えるスペースも内包したグループホームについても興味を惹かれました。

さらに青森県でも影響の大きな人手不足・過疎化の現状にも触れて、地域の雪下ろしや冠婚葬祭の手伝いなど自らが社会インフラ企業として地域を支えるというの独自の姿勢だと感じました。今回の東北フォーラムでは、他県の独自の取り組みや人手不足などの課題に対する向き合い方など、現場の声も含めて聞くことができ、とても実りのある研修でした。

[障害者支援施設向陽園
サービス管理責任者 高橋 共生]

東北フォーラムは、同じ志を持つ仲間と出会い、語り合い、「一人ではない」と実感できる貴重な場であり、新たな気づきと学びを得られる機会でもあります。2027年は山形県での開催が予定されています。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

[グループホーム支援センターなかやま
支援員 菅原 拓也]

